

令和5年度 日本大学自主創造プロジェクト

日大生のやってみたいを実現するプロジェクト成果報告書

2023020

プロジェクト名 大学に密着!! 僕たち私たちの日常。

プロジェクトの概要

本団体は生産工学部建築工学科の学生を主導に、日本大学内の学生に対して密着動画を撮影し、学生視点で学校の良さや実態を伝え、日本大学の発展を目的に活動を行いました。ソーシャルメディアはさらに需要が高まる現在、大学進学を考える10代を主ターゲットにキャンパスで過ごす学生や教授、学生団体へ、インタビューなどを通して学部学科の実情を伝えます。また学生の実態を示すことで、大学側が教育改善や生徒の主張を尊重する大学運営を行うことに寄与する。

プロジェクトの結果・成果

本年の活動は、日本大学の建築系学部の卒業制作「卒業設計」を企画題材に上げ撮影を行った。理工学部海洋建築工学科、工学部建築学科、生産工学部建築工学科の4学部4学科の内、芸術学部を除く3学部制作の様相、制作風景の違いに迫った。

工学部建築学科（浦部智義研究室）では、卒業設計で自分の案を持ち寄り、同じ制作を共にする学生と先生、助手がみんなでテーブルを囲んで提案について議論していた。終始和やかで柔軟に物事を考えられそうな環境だった。また別テーブルで、学生だけで議論し合う様子がみられ制作に励みがでそうという印象であった。

生産工学部建築工学科（篠崎健一研究室）では、少し厳かな雰囲気であったが、それほど真剣で制作に力を入れている印象であった。時には和やかに緩急がありメリハリがある環境であった。各々が建築物を建てる敷地に対してどう応えるのか、どう提案をするのかなど考えの芯が強い学生が多い印象であった。

理工学部海洋建築工学科（菅原遼・小林直明研究室）では、各々が、自分の人生や社会現象に対して思うことや解決したいこと、向き合いたいことなど自他に影響を与えるような提案を考える学生が多く、学生の自由な発想がより尊重される環境の印象であった。

各学部の違いはその研究室ごとの制作のルール、同期など環境によってモチベーションがあったが、皆制作のために歴史や情報収集を常日頃から行うとともに、自分が何をしたいのかを見つめ直す様をみた。自分で考えて制作で答えを出すという卒業設計の意義の一つを経験者ながら理解できたのかもしれない。各それぞれ30秒の動画を6本制作し制作の目標は満たした。しかし、残りの芸術学部デザイン学科の撮影、及び残り撮影分の動画投稿を時期活動の動画編集作業で使用し、来年度にアップしていく。

活動写真

